

2020年卒
Vol.05

3月1日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2020 学生モニター調査結果 (2019年3月発行)

2020年卒者の採用広報が3月1日に解禁され、多くの学生が就職活動を本格的にスタートした。「キャリアス就活 学生モニター」の解禁直後の就職活動状況や意識について調査を行ったところ、前年同期調査に比べ全体的に動きが早まっており、1割を超える学生が早くも内定を手に行っていることがわかった。

1. エントリー状況

- 一人あたりのエントリー社数の平均は23.1社。前年調査(22.4社)より0.7社増加
- 今後の予定社数の平均は10.6社。前年調査(13.3社)より2.7社少ない

2. セミナー・会社説明会への参加状況

- 企業単独セミナーは平均3.4社参加。前年(3.0社)より微増
- 合同企業説明会は来場回数、小セミナーやブースへの訪問社数とも前年より増加

3. 選考試験の受験状況

- エントリーシート提出者は52.0%。筆記試験受験者54.6%。面接試験受験者46.4%。
いずれも前年同期より10ポイント以上増加

4. 3月1日現在の内定状況

- 内定率は13.9%。前年同期実績(8.0%)を5.9ポイント上回る
- 内定取得者のうち、就職先を決定し活動を終了したのは10.4%(モニター全体の1.4%)

5. OB・OG訪問の状況

- OB・OG訪問経験者は21.1%。前年(16.1%)より5ポイント増加
- 訪問相手の探し方は「マッチングサービスを通じて探した」が最多(35.6%)

6. 現時点の志望業界

- 1位「素材・化学」、2位「情報・インターネットサービス」、3位「情報処理・ソフトウェア」

7. 就職活動の中心とする予定の企業の規模

- 「業界トップの企業」24.2%、「大手企業」33.8%。大手狙いの学生が約6割

8. 今後の就職活動の方針と終了希望時期

- 就職活動を終えたい時期は6月上旬が最多(20.1%)

9. 企業研究を行う上で知りたい情報

- トップ3は、「実際の仕事内容」「社風」「求める人材像」

調査概要

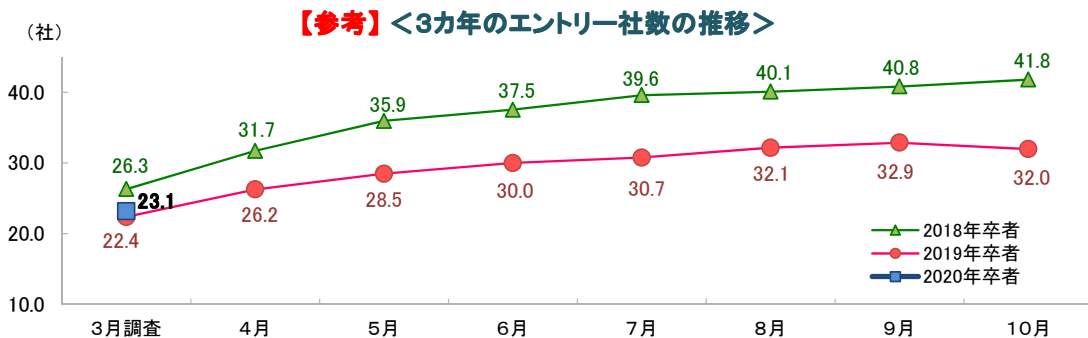
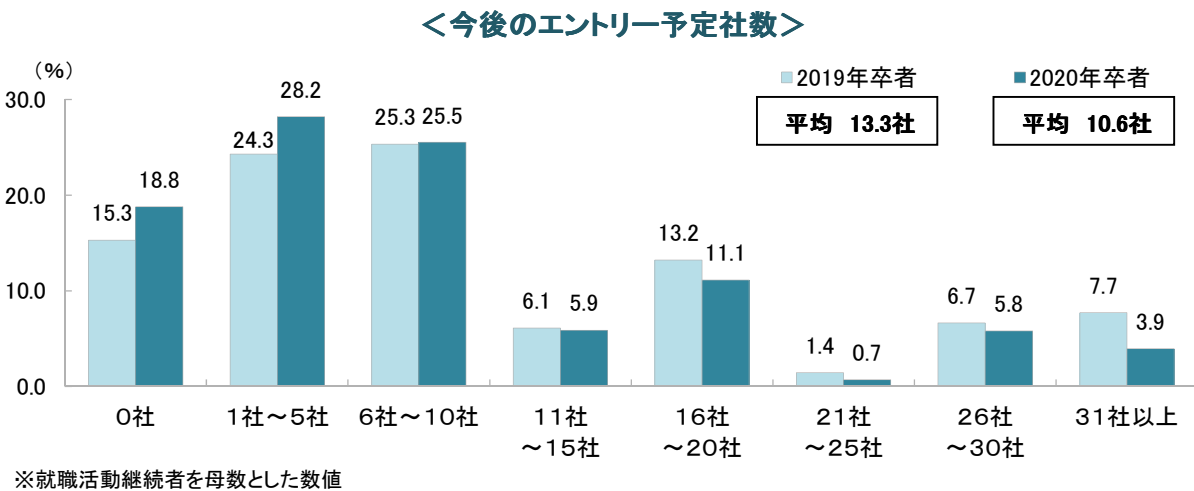
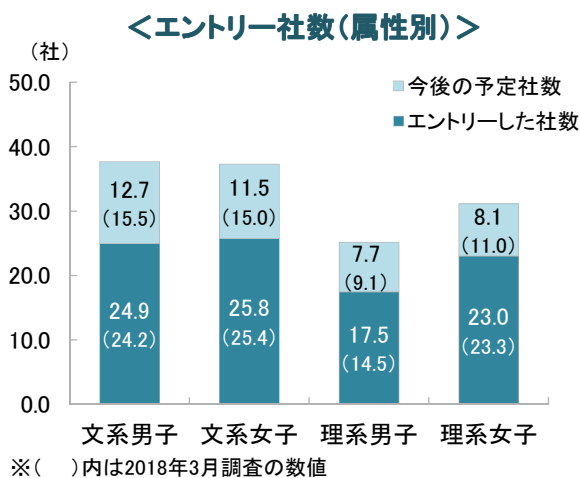
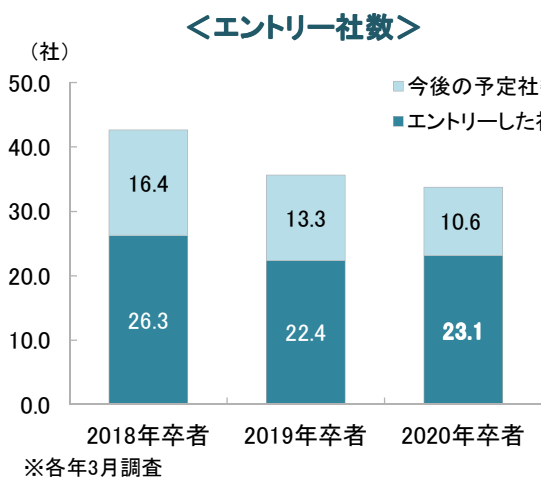
- 調査対象 : 2020年3月に卒業予定の大学3年生(理系は大学院修士課程1年生含む)
回答者数 : 1,318人(文系男子448人、文系女子383人、理系男子340人、理系女子147人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2019年3月1日~6日
サンプリング : キャリタス就活2020学生モニター(2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

1. エントリー状況

2020年卒者の就職活動が、3月1日より本格的にスタートした。まず全体的な活動量を確認しよう。

一人あたりのエントリー社数の平均は23.1社で、わずかだが前年同期実績(22.4社)を上回った。ただ、今後のエントリー予定社数は平均10.6社で、前年同期調査(13.3社)を2.7社下回る。エントリーのタイミングがやや前倒しになったことで現時点では前年同期を上回っているが、今後の伸びは鈍いことが予想される。このまま進行すれば、今年の就活生の最終的なエントリー社数は前年を下回る可能性もありそうだ。

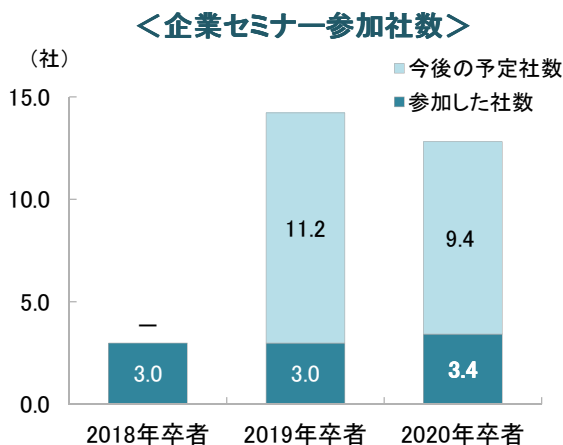
なお、今後のエントリー予定社数を「0社」と回答、つまり企業へのエントリーは済んでいるという認識の者が18.8%に上った(就活終了者は除いて集計)。



2. セミナー・会社説明会への参加状況

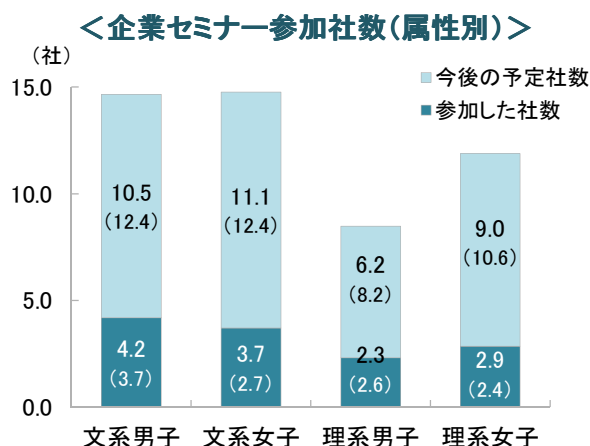
次にセミナー・会社説明会の参加状況を見てみる。企業セミナーの平均参加社数は3.4社で、前年同期実績(3.0社)をやや上回った。企業セミナーはこれから開催のピークを迎えるが、今後の参加予定を尋ねてみたところ、平均は9.4社だった。前年同期調査(11.2社)を1.8社下回っており、エントリー同様に今後の伸びは鈍く、前年を下回る可能性がありそうだ。

合同企業説明会については来場回数、小セミナーやブースへの訪問社数ともに前年を上回り、序盤に多くの参加者を集めたことがうかがえる。学内企業説明会への参加はやや減少した。

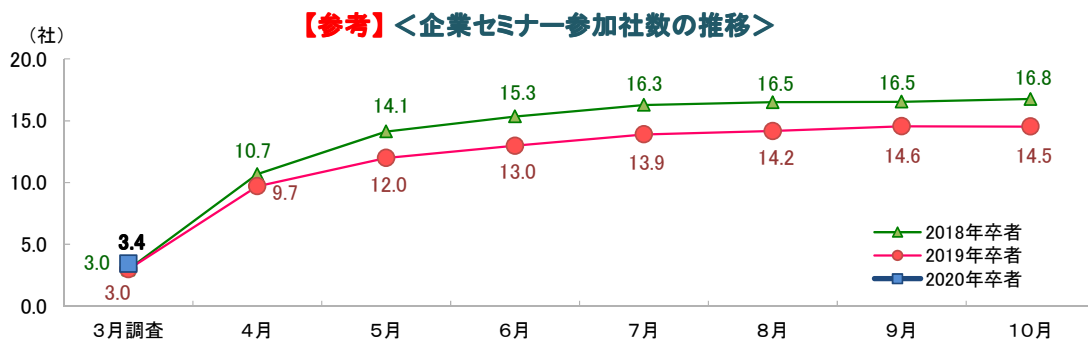


※各年3月調査

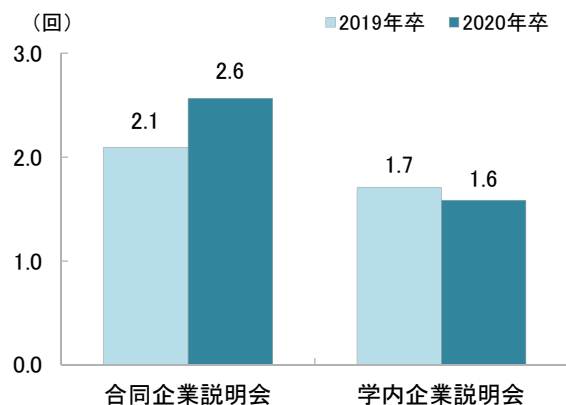
※「今後の予定社数」は2018年卒者は調査なし



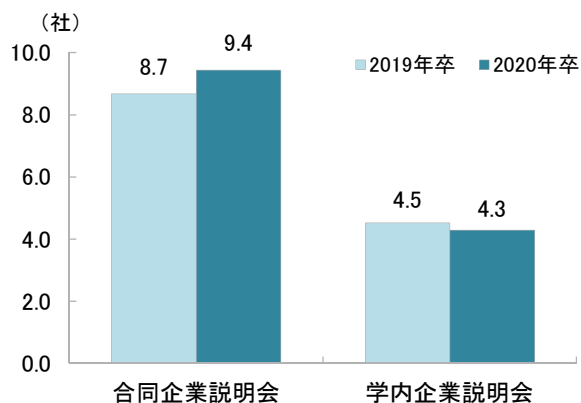
※()内は2018年3月調査の数値



<合同/学内説明会 来場回数>



<合同/学内説明会 訪問社数>

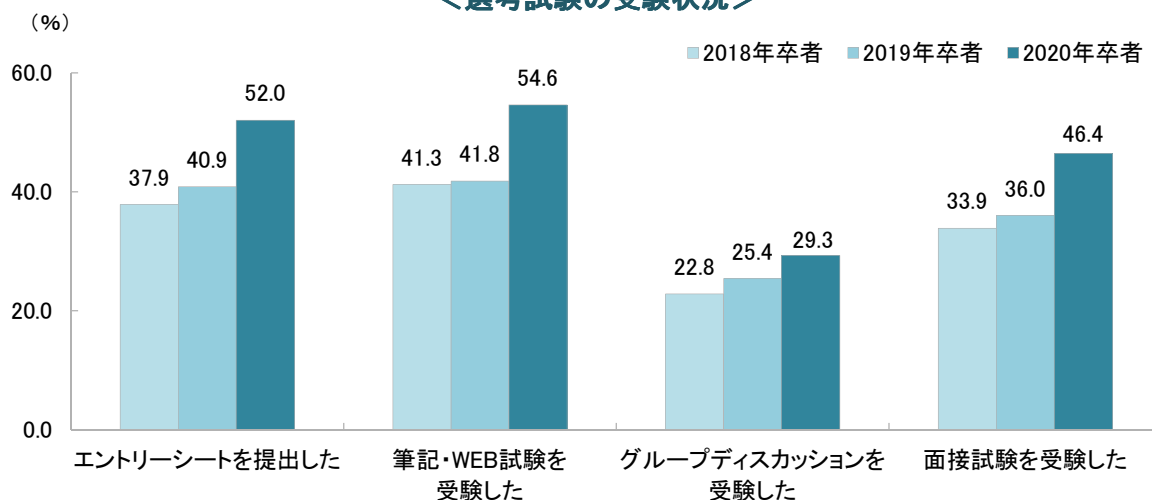


3. 選考試験の受験状況

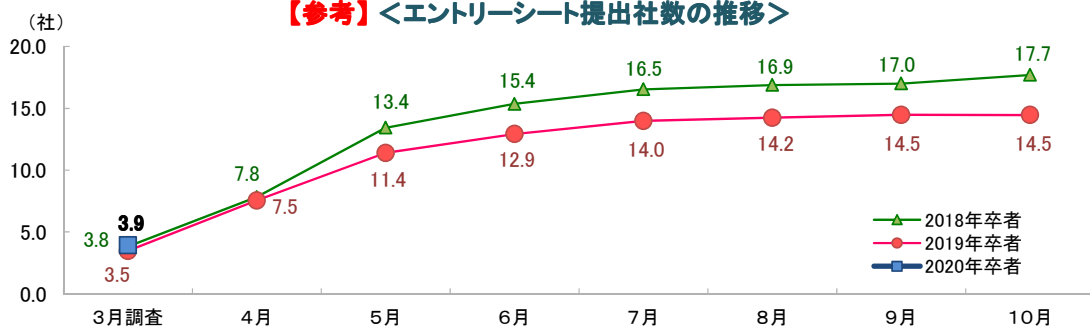
選考試験の受験状況を見てみよう。エントリーシート (ES) を提出した学生は全体の 52.0% で、早くも過半数が提出経験をもつ。前年同期調査より 10 ポイント以上増加しており、前年よりも提出のタイミングは早まっている。

筆記・WEB 試験を受験した学生も 5 割を超え (54.6%)、面接試験受験者が 46.4% に上るなど、前年同期実績を大幅に上回る経験率だ。受験社数についてもいずれも前年を上回っており、企業側の動きの早さが鮮明だ。

<選考試験の受験状況>



【参考】<エントリーシート提出社数の推移>



<選考試験の受験社数>

	(社)					
	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリーシート	3.9	3.5	4.5	4.2	3.4	2.9
筆記・WEB試験	2.9	2.6	3.2	3.3	2.4	2.2
グループディスカッション	2.3	2.2	3.0	2.1	1.9	1.5
面接試験	2.7	2.3	2.9	3.1	2.1	2.1

4. 3月1日現在の内定状況

2020年卒者の就職戦線は始まったばかりではあるが、調査時点ですでに内定を手にしておりという学生は全体の13.9%に上った。前回調査(2月調査)からの1カ月間に5.8ポイント上昇しており、前年同期実績(8.0%)を5.9ポイント上回る。

内定率を属性別に見ると、文理男女いずれも1割を超え前年同期を上回る。

内定企業の業界を尋ねると、「調査・コンサルタント」が29.5%で最も多く、「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」(22.4%)が2位。3位以下は「情報・インターネットサービス」(8.7%)、「建設・住宅・不動産」(8.2%)、「人材紹介・人材派遣」(7.7%)の順だった。

内定取得学生のうち、就職先を決めて就職活動を終了したのは10.4%。大半は内定取得後も就職活動を継続しており、早期の内定を足掛かりに就職活動を本格化させようという考えが読み取れる。

<3月1日現在の内定状況>

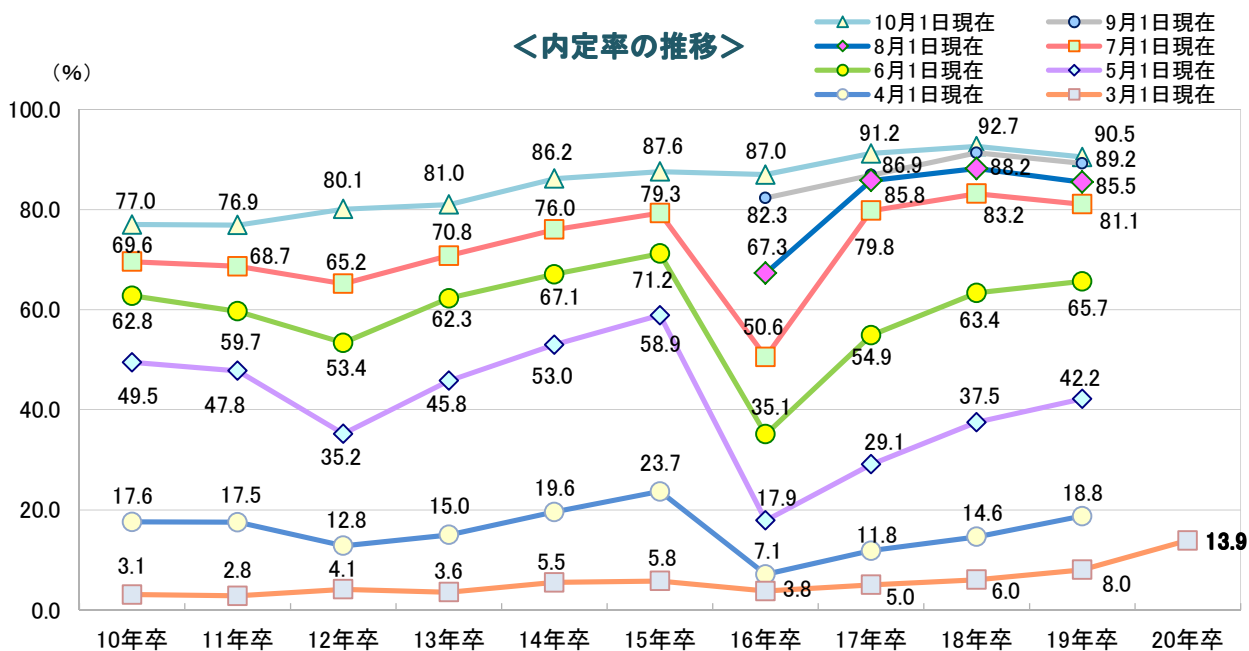
*「内定」には、内々定を含む

		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		13.9 (8.0)	12.3 (10.4)	13.6 (5.2)	15.3 (8.3)	16.3 (8.5)
内定なし		86.1 (92.0)	87.7 (89.6)	86.4 (94.8)	84.7 (91.7)	83.7 (91.5)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	10.4 (7.9)	3.6 (11.6)	7.7 (4.8)	17.3 (8.3)	16.7 (0.0)
	活動は終了したが複数内定保持	3.3 (1.0)	3.6 (2.3)	3.8 (0.0)	3.8 (0.0)	0.0 (0.0)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.0 (1.0)	0.0 (0.0)	0.0 (4.8)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)
	就職活動継続	86.3 (90.1)	92.7 (86.0)	88.5 (90.5)	78.8 (91.7)	83.3 (100.0)

(%)

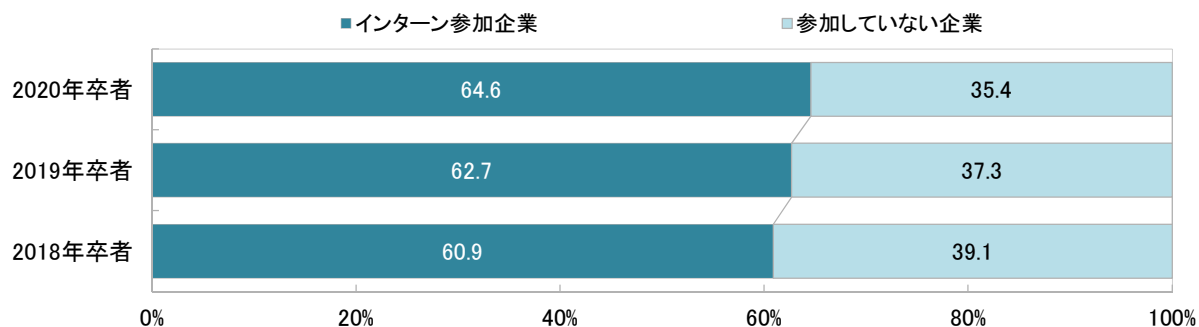
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		1.3 (1.2)	1.4 (1.2)	1.3 (1.1)	1.3 (1.2)	1.3 (1.2)

(社)



2 月調査では、インターンシップ参加企業を中心に数社の本選考を受験する動きが見られたが、内定を得た企業のインターン参加経験有無を調べたところ、内定企業の 6 割超 (64.6%) がインターンシップに参加した企業だった。この比率は毎年上昇している。

＜内定を得た企業のインターン参加有無＞



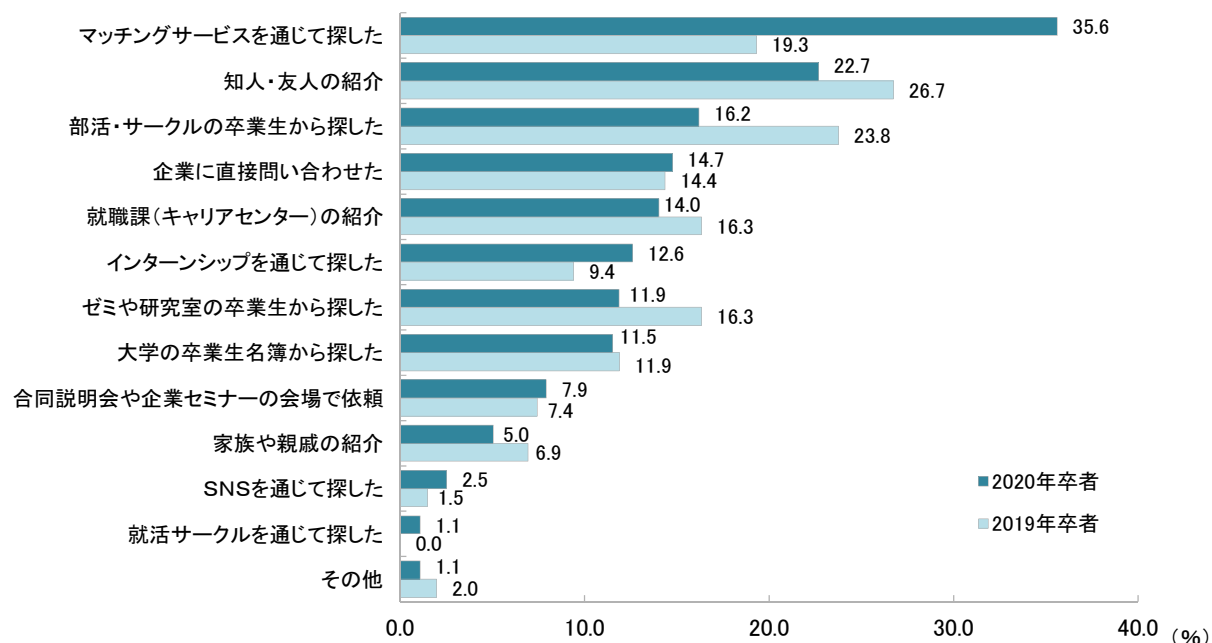
5. OB・OG 訪問の状況

現時点で、自ら個別に連絡をとって「OB・OG 訪問をした」と回答した学生は全体の 21.1%。前年より 5 ポイント増加。例年に比べ 3 月の解禁前から企業研究を進める学生の割合が増加していたことから、企業研究の一環として OB・OG 訪問を始めるタイミングも早まったものと考えられる。

OB・OG 訪問の相手を探す手段としては「マッチングサービスを通じて探した」が最多 (35.6%) で、前年 (19.3%) を大幅に上回った。話を聞きたい相手を能動的に探す手段として活用が進んでいる様子がうかがえる。一方「知人・友人の紹介」「部活・サークルの卒業生から探した」は減少。研究したい企業を絞り込んで OB・OG 訪問をする学生が増加したことが推測できる。

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
OB・OG訪問をした	21.1	16.1	24.6	25.8	12.1	19.0

＜OB・OGを探す手段＞



6. 現時点の志望業界

3月1日の時点で志望業界を「決めている」学生は88.7%。2月調査では78.7%だったので、この1カ月で10ポイント増加した。3月1日の解禁直前に、業界を絞る動きが加速したと見られる。

「決めている」と回答した人に具体的な業界を尋ねたところ(40業界から5つまで選択)、「素材・化学」が最も多かった(16.2%)。ここに「情報・インターネットサービス」(15.5%)、「情報処理・ソフトウェア」(15.1%)とIT業界が続く。全体的にポイント差が少なく、人気分散していることがわかる。

文理男女別に見ると、文系は「銀行」の順位が高く、文系男子で1位、女子で2位。文系女子の1位は「マスコミ」だった。理系はメーカーが上位に来ているが、男子においてITも人気が高く、女子は「素材・化学」「医薬品・化粧品」「水産・食品」の3業界に人気集中している。

<志望業界の決定状況>

(%)

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
決めている	88.7	88.0	87.3	86.4	91.2	93.2
決めていない	11.3	12.0	12.7	13.6	8.8	6.8

<志望業界(上位20業界)>

※5つまで選択 (%)

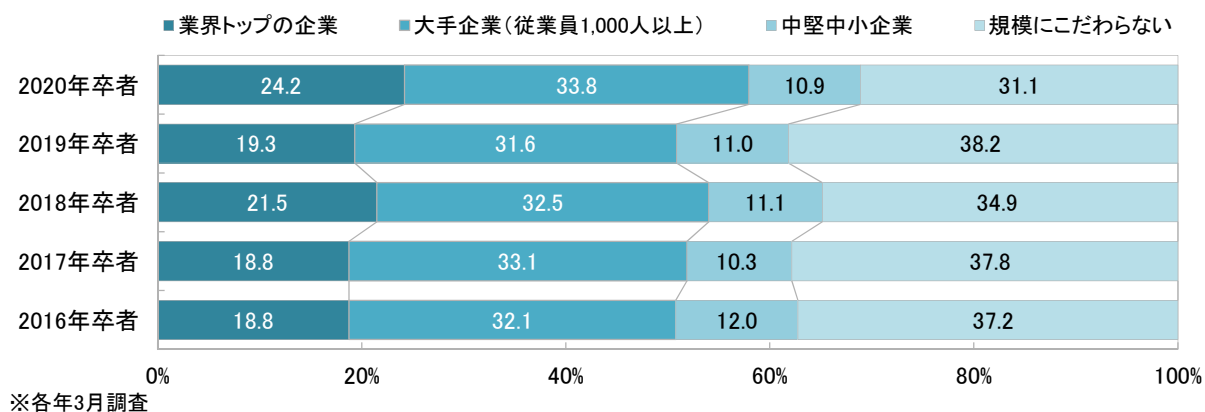
	全 体		文系男子		文系女子		理系男子		理系女子	
1	素材・化学 ②	16.2	銀行	20.7	マスコミ	20.5	電子・電機	25.8	素材・化学	31.4
2	情報・インターネットサービス ④	15.5	運輸・倉庫	18.7	銀行	17.5	情報・インターネットサービス	22.6	医薬品・医療関連・化粧品	29.2
3	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ②	15.1	建設・住宅・不動産	17.9	運輸・倉庫	14.8	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	21.9	水産・食品	28.5
4	水産・食品 ①	15.0	商社(総合)	16.4	医薬品・医療関連・化粧品	14.5	素材・化学	21.9	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	18.2
5	建設・住宅・不動産 ⑦	14.9	調査・コンサルタント	14.3	情報・インターネットサービス	14.5	自動車・輸送用機器	21.6	建設・住宅・不動産	16.1
6	電子・電機	14.8	商社(専門)	14.1	水産・食品	14.5	精密機器・医療用機器	17.4	情報・インターネットサービス	12.4
7	医薬品・医療関連・化粧品 ⑥	13.4	官公庁・団体	12.5	商社(総合)	14.2	医薬品・医療関連・化粧品	15.8	精密機器・医療用機器	12.4
8	銀行 ⑤	13.3	素材・化学	12.3	ホテル・旅行	13.3	水産・食品	13.5	電子・電機	10.9
	運輸・倉庫	13.3	電子・電機	12.3	調査・コンサルタント	13.3	機械・プラントエンジニアリング	13.2	官公庁・団体	10.2
10	調査・コンサルタント ⑩	13.2	保険	12.3	官公庁・団体	12.7	調査・コンサルタント	13.2	調査・コンサルタント	9.5
11	自動車・輸送用機器	12.9	自動車・輸送用機器	12.0	建設・住宅・不動産	12.7	建設・住宅・不動産	12.9	自動車・輸送用機器	8.8
12	マスコミ ⑨	11.6	エネルギー	11.8	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	12.7	通信関連	11.0	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス	8.0
13	商社(総合)	11.2	情報・インターネットサービス	11.8	保険	12.1	鉄鋼・非鉄・金属製品	10.6	商社(専門)	8.0
14	官公庁・団体 ⑧	11.1	水産・食品	11.8	商社(専門)	10.3	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス	10.0	その他サービス	7.3
15	商社(専門)	9.7	マスコミ	11.3	エネルギー	9.4	運輸・倉庫	9.4	マスコミ	6.6
	精密機器・医療用機器	9.7	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	10.7	人材紹介・人材派遣	9.4	エネルギー	9.0	印刷・パッケージ	6.6
17	エネルギー	9.6	機械・プラントエンジニアリング	8.7	素材・化学	9.1	官公庁・団体	8.1	機械・プラントエンジニアリング	5.8
18	保険	8.6	証券・投信・投資顧問	7.9	電子・電機	9.1	商社(総合)	5.5	農業・林業・鉱業	5.8
19	機械・プラントエンジニアリング	8.1	鉄鋼・非鉄・金属製品	7.4	印刷・パッケージ	8.5	マスコミ	4.8	エネルギー	5.1
20	通信関連	7.5	精密機器・医療用機器	6.9	教育	7.6	農業・林業・鉱業	4.8	通信関連	4.4
	鉄鋼・非鉄・金属製品	7.5	通信関連	6.9	自動車・輸送用機器	7.6			鉄鋼・非鉄・金属製品	4.4

※○の中の数字は前年同調査の全体順位10位以内

7. 就職活動の中心とする予定の企業の規模

就職活動の中心とする企業の規模を尋ね、5カ年の推移を比較した。「業界トップの企業を中心に活動するつもり」24.2%、「大手企業を中心に活動するつもり」33.8%と、いわゆる大手狙いの学生は約6割(計58.0%)。前年調査(50.9%)に比べ7.1ポイント増加。過去5年間の中で最も高い割合で、学生の大手志向の強まりが表れている。

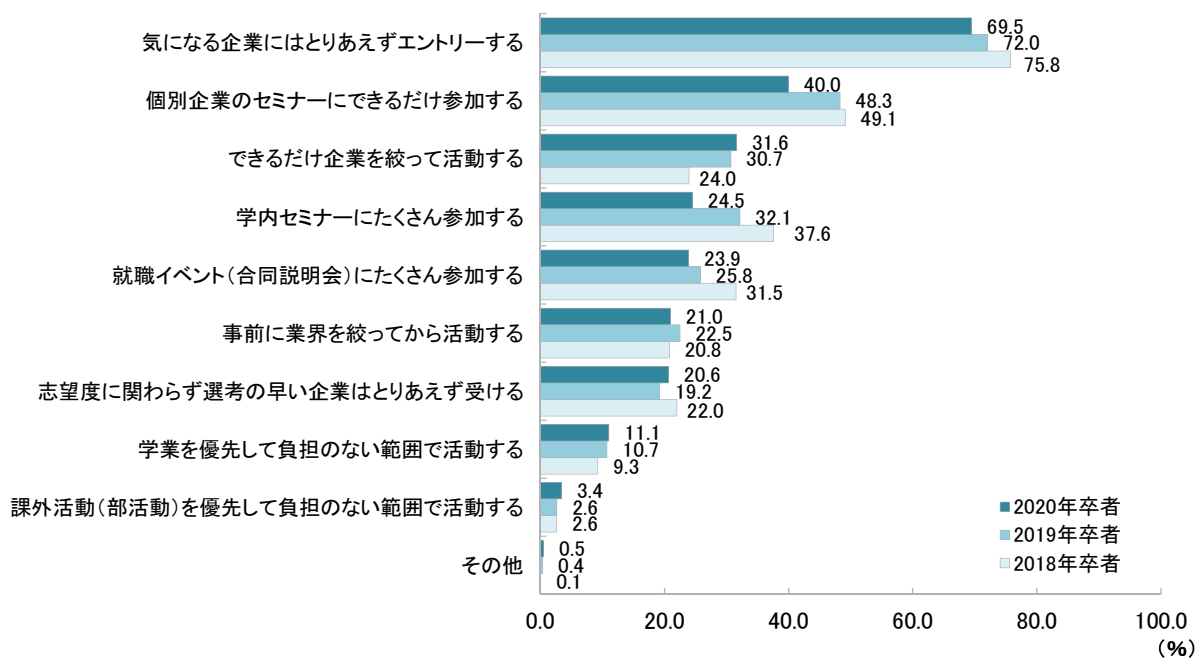
<就職活動の中心とする企業規模>



8. 今後の就職活動の方針と終了希望時期

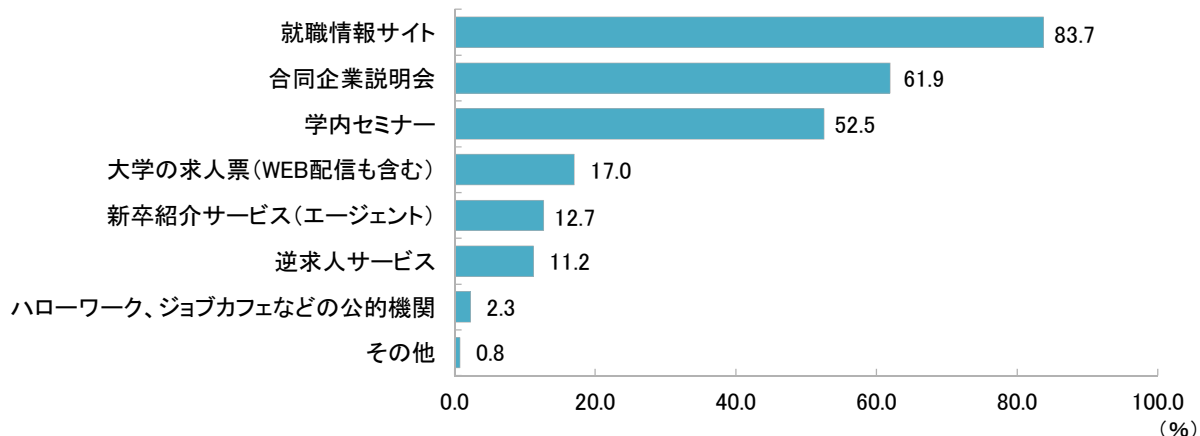
今後の就職活動の方針を尋ねた。最も多くが選んだのは、「気になる企業にはとりあえずエントリーする」で約7割(69.5%)。幅広く情報収集して興味のもてる企業を探したいと考えている学生が大半だが、3カ年分を比較すると、減少傾向が見られる。「個別企業のセミナーにできるだけ参加する」「学内セミナーにたくさん参加する」も減少傾向が顕著で、2年前と比較してそれぞれ9.1ポイント、13.1ポイント減少した。一方「できるだけ企業を絞って活動する」(31.6%)は、2年前から7.6ポイント増加しており、志望先を絞って活動する学生が増加していることがうかがえる。近年、エントリー社数をはじめとした学生の活動量が減少しているが、今年もさらに減少することが考えられる。

<今後の就職活動の方針>



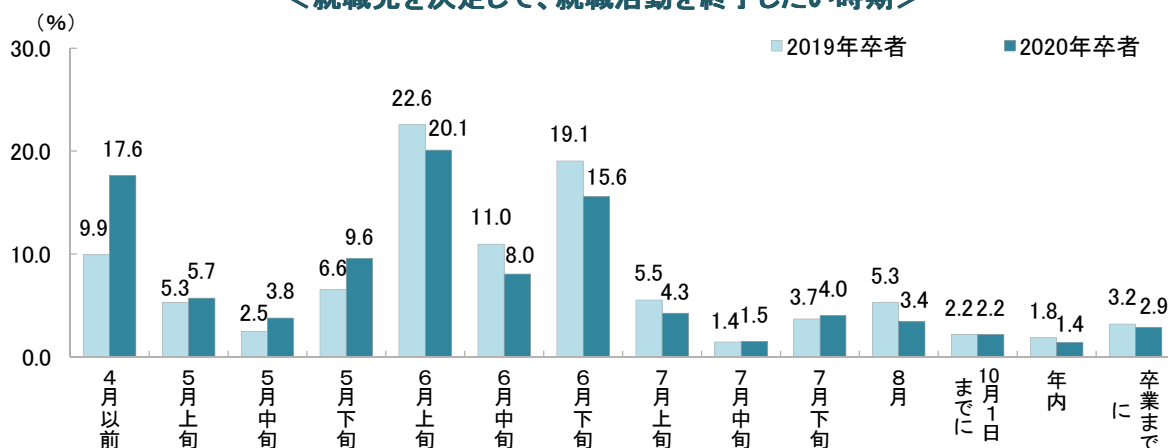
「エントリーする企業を探している」と回答した学生に、企業を探す手段を尋ねると、最も多かったのは「就職情報サイト」で8割超(83.7%)。続く「合同企業説明会」は6割強(61.9%)、「学内セミナー」は半数強(52.5%)の学生が選んだ。WEBだけでなく、企業と直に接触できる機会も利用して、自分に合う企業を探したいと考えているのだろう。

＜新たな企業を探す手段＞



就職先を決定して就職活動を終了したいと思う時期を尋ねたところ、「6月上旬」(20.1%)が最多だが、前年調査(22.6%)より2.5ポイント減少。5月以前が軒並み増加しており、5月以前を合計すると36.7%で、前年調査(計24.3%)を12.4ポイント上回る。6月の選考解禁を待たずに終了したいと考える学生が増加していることがわかる。特に、「4月以前」(17.6%)が、前年(9.9%)より7.7ポイント増加。一定数の学生が大型連休前に活動を終わらせたいと考えているようだ。

＜就職先を決定して、就職活動を終了したい時期＞



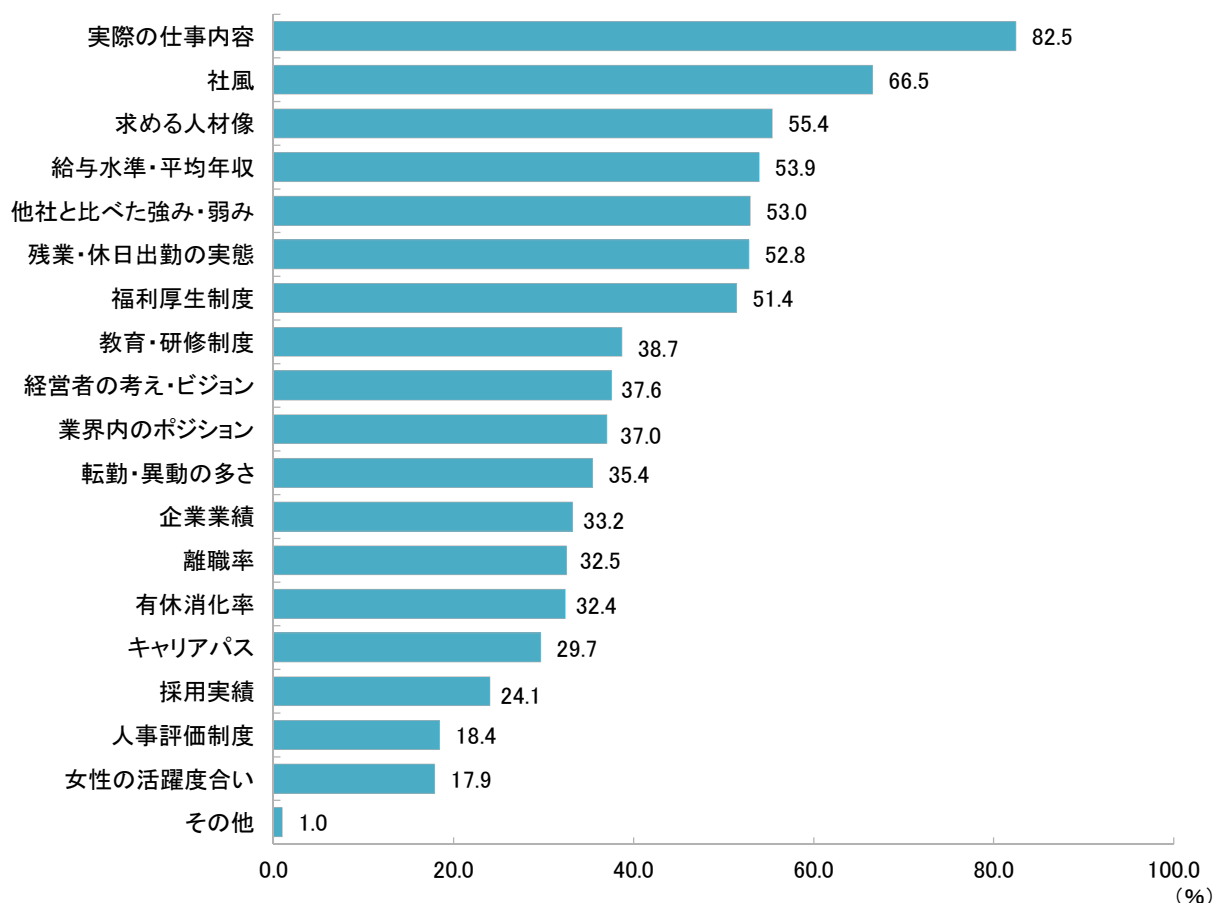
■就職活動に関して思うこと

- 3月1日を迎え、ようやく「始まった」ことに安堵している。 ＜文系女子＞
- オリンピック開催前の景気が良い最後のチャンスかもしれないので、悔いの残らないよう精いっぱい取り組んでいこうと思う。 ＜理系男子＞
- 既に内定をもらっている学生もいると聞いており、内定がない自分は焦りを感じる。 ＜文系男子＞
- 売り手市場とはいえ、志望企業に内定をもらえるとは限らないため、根気強く取り組んでいきたい。 ＜文系男子＞
- 情報収集が苦手の出遅れているような気がして、漠然と不安を感じる。 ＜理系女子＞
- ゴールデンウィーク前には終わらせて、その時期になったら帰省したい。 ＜理系男子＞

9. 企業研究を行う上で知りたい情報

企業研究を進める上で知りたい情報を尋ねた。最もポイントを集めたのは「実際の仕事内容」(82.5%)で、次いで「社風」(66.5%)が続く。「給与水準・平均年収」「残業・休日出勤の実態」「福利厚生制度」などの条件面に加え、「求める人材像」「他社と比べた強み・弱み」なども過半数の学生が選んでおり、エントリーシートや面接などの選考を見据えた企業研究を進めている様子が見えてくる。

<企業研究を行う上で知りたい情報>



就職活動で、現在困っていること

- 説明会に参加しないと選考に進めないのに満席だったり、同じ日に何社も重なっていたりと、スケジュールがタイトで大変。 <文系女子>
- 大手企業以外の情報を得にくいこと。 <文系男子>
- 働きたい業界、職種は決まっているが、その中でどの企業が自分に合っているのかわからない。 <理系女子>
- 企業を見れば見るほど迷いが出てくる。1社を選ぶ基準が見えなくなっている。 <文系女子>
- 最も志望している企業の早期選考に参加することになり、対策が十分にできていなくて不安。 <理系女子>
- インターンシップの事前選考でも面接ですべて落ちたので、面接に自信がない。 <文系男子>
- エントリーシートの期限が近いものが多くて大変。 <理系女子>
- 自分の考えや研究内容を限られた字数で表現することが難しい。 <理系男子>
- 長い就職活動を、モチベーション保ったまま続けられるか不安。 <文系女子>
- 地方から東京へ行く際には、まとめて複数社受けたいと思うが、うまく予定が合わない。 <理系男子>
- 家族がみな大企業出身なので、中小企業を受けるといって嫌な顔をされる。 <文系男子>
- 大学院の研究で忙しく、就活の時間を捻出することが難しい。 <理系男子>